www.jaip.jp/ BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS No.546

日本洋書協会
JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

MAY 2017
REPORT MAGAZINE
会報誌 vol. 51 no. 3

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051 e-mail:office@jaip.jp

理事会報告

新理事会　2017年3月30日（木）

出席（敬称略）仲、グレシャム、山川、細谷、鶴（事務局）

1．理事長、副理事長選出

互選の結果、理事長にマーク・グレシャム、副理事長に山川真一の各氏とした。

2．委員会担当割り

協議の結果委員会の担当は以下とした。担当理事の社から委員長を出す規定は無いが、総会後速やかに委員会を開催し、理事立ち会いの下委員長を選出する。

・総務：グレシャム理事長
・メディア・広報：細谷理事
・文化・厚生：鶴理事
・事業：仲理事

3．来期予算案審議

総務委員会案を了承した。厳しい予算なので、支出の削減だけで無く、新たな収入の道を探る。

4．推薦理事候補

時間を掛けて候補を探す。

理事会　2017年4月12日（水）

出席（敬称略）相澤、松村、細谷、小松崎、鶴（事務局）

1．決算

事務局から詳細の説明があり、2016年度決算を承認した。また4月5日に会計監査があり、問題の無かった旨の報告があった。

2．委員会報告

・総務

総会に向けての準備をしている。またセミナーの企画も継続している。

・メディア・広報

ダイレクトリーの編集が佳境。平行して会報５月号も準備している。

・文化・厚生

4月26日にボウリング大会を行う。

・事業

今年の東京国際ブックフェアは正式に中止が発表された。バーゲンが出来ないのは痛手。

3．退会承認

株式会社　東京ブックランドから出された退会届を受理した。

■ 訂正

ダイレクトリー２０１７　３３ページ
誤　TEL 03-5408-1888　FAX 03-5408-1880
正　TEL 03-6895-7447　FAX: 03-6895-7301(共有)
お詫びして訂正致します。

2016年洋書貿易統計

藤　村　裕　二

3月に財務省（関税局調査課）から公表されました、2016年の「貿易統計」について報告させていただきます。このレポートは､「貿易統計」の中の「普通貿易統計」のデータから、絵本を含む洋書と洋雑誌、それに楽譜や地図、カレンダーなどを含む「印刷物」に関する統計を抜き出して整理したものです。尚、関連データの参照先URLは以下の文中のものも含めて、最後にまとめて掲載いたしました。

「貿易統計」は、1類の「動物」から97類の「美術品」まで品目毎に細かく分類されていますが、個々の品目は6桁の国際標準コード（H.S. Code）に日本独自の3桁を加えた9桁のコードで表されています。洋書や雑誌は49類の「印刷した書籍、新聞、絵画その他の印刷物並びに手書き文書、タイプ文書、設計図及び図案」という項目に含まれており、49類の中は更に細分化されています。

個々の統計内容の説明の前に、2016年「貿易統計」全体の概要について簡単に確認していきたいと思います。（この内容は財務省の報道発表資料にもとづいています）

2016年の輸出総額は、70兆392億円、対前年比▲7.4%で4年ぶりの減少、輸入総額は65兆9651億円、対前年比▲15.9%で2年連続の減少となりましたが、差引金額は4兆741億円で6年ぶりの黒字となりました。具体的に、鉄鋼や自動車等の輸出の減少、原粗油や液化天然ガス等の輸入の減少という状況がありましたが、対前年比で10%にのぼる円高の影響により輸入金額が大きく減少したことにより黒字化したものと思われます。

国・地域別では、米国向けは輸出入とも減少、差引では6兆8347億円の黒字となりましたが2年ぶりに黒字額が減少しています。また、EU向けでも、輸出入とも減少し、差引も1540億円の赤字となり、これは5年連続です。一方、中国向けは輸入超過で差引4兆6531億円の大幅な赤字となっていますが、赤字額は6年ぶりに減少しています。しかし、この中国向けを含むアジア全体では、輸出入とも減少したものの、差引では3兆9215億円の黒字となっており、これは2年連続です。

次に具体的な統計内容の説明に入っていきたいと思います。

（1）　輸入額

1．書籍・雑誌の輸入額

1）2016年の輸入額（表1）

書籍と雑誌の金額ベースでの構成比はおおよそ86%と14%でほぼ昨年と同じ割合です。総額は2015年に比べて約16%減少していますが、個々の金額のうち書籍に関しては、昨年の3%に比べて16%と大きく減少したのに対して、雑誌は11%と、昨年の30%に比べて減少割合が大きく減っています。書籍の構成比が大きいため総額でも大きく減少したものと思われます。一方で、2015年と2016年の為替相場の動きを見てみますと、年間平均レートがドルでは約10%の大幅な円高（ユーロも約10%の円高）となっていますので、これが輸入額（円ベース）減少の要因の一つになっているのではないかと思われます。仮に、原価が変わらなかったとして、円高の場合は輸入金額が減るはずですので、統計に現れている金額（円ベース）だけでは分からない原価ベースでの輸入額の変動があったのではないかと推測できます。この点については後段の「為替の影響について」の項目で改めて触れたいと思います。

（表1）2016年の書籍・雑誌関連品目の輸入額

（単位:百万円）

分　類	品　目	2015 輸入額	2016 輸入額	前年比	構成比
印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物および絵本	単一シートのもの	771	769	100%	3.0%
	辞典および事典	89	58	65%	0.2%
	その他のもの（書籍）	21,860	17,947	82%	70.6%
	幼児用の絵本及び習画本	3,478	3,113	90%	12.3%
	小　計	26,198	21,887	84%	86.1%
新聞、雑誌その他の定期刊行物	1週に4回以上発行するもの	4	2	50%	0.0%
	その他のもの	3,964	3,519	89%	13.8%
	小　計	3,968	3,521	89%	13.9%
合　計		30,166	25,408	84%	100.0%

2）最近10年間の輸入額の推移（表2）

2007年から2016年の10年間の推移を見てみますと、長期的な輸入額の落ち込みが顕著に表れているのが分かります。2007年を100とした場合、2016年の輸入額全体では50と半減しています。個々に見ると、2007年に対して書籍が62と大きく減少しているのに対して、雑誌は更に大きく減少し22となっています。世間で言われている本離れが洋書の世界でも進んでいるということかと思いますが、雑誌に関してはやはり「電子化」がますます大きく影響しているのではないかと思われます。2016年の輸入額と同じような為替の影響に加えて、10年というスパンでは原価ベース（数量）でも大きく減少しているものと推測されます。

（表2）最近10年間の書籍・雑誌関連品目の輸入額の推移

（単位:百万円）

品目	印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物および絵本											新聞・雑誌			合　計		
	単一シート		辞典・事典		その他（書籍）		絵本		小計								
年度	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比	対2007	輸入額	前年比	対2007	輸入額	前年比	対2007
2007	307	177%	128	83%	29,580	96%	5,066	111%	35,081	98%	100	15,824	97%	100	50,905	98%	100
2008	242	79%	179	140%	26,927	91%	3,881	77%	31,229	89%	89	13,300	84%	84	44,529	87%	87
2009	221	91%	74	41%	22,920	85%	2,798	72%	26,013	83%	74	10,962	82%	69	36,975	83%	73
2010	257	116%	107	145%	22,646	99%	2,636	94%	25,646	99%	73	9,137	83%	58	34,783	94%	68
2011	469	182%	55	51%	21,643	96%	2,915	111%	25,082	98%	71	7,165	78%	45	32,247	93%	63
2012	664	142%	64	116%	19,997	92%	3,072	105%	23,797	95%	68	5,983	84%	38	29,780	92%	59
2013	680	102%	78	122%	21,845	109%	3,111	101%	25,714	108%	73	6,449	108%	41	32,163	108%	63
2014	850	125%	73	94%	22,277	102%	3,814	123%	27,014	105%	77	5,636	87%	36	32,650	102%	64
2015	771	91%	89	122%	21,860	98%	3,478	91%	26,198	97%	75	3,968	70%	25	30,166	92%	59
2016	769	100%	58	65%	17,947	82%	3,113	90%	21,887	84%	62	3,521	89%	22	25,408	84%	50

3）主要国・地域別の2016年と2015年の輸入額

次に、国別の輸入額について見ていきますが、今回から国別の順位表を1位から20位の1表にまとめましたのでご了承ください。

上位20カ国では昨年22位のベルギーが13位に上がり、表には出ていませんが、11位のオーストリアが22位に大きく後退しています。（表3-a）

このうち、上位10ヶ国では、書籍は輸入総額の94%、雑誌は99%を、更に上位20ヶ国まででは、書籍は輸入総額の99%、雑誌はほぼ100%を占めており、輸入先が上位の国々に固定化している状況です。また、上位20ヶ国の2016年の輸入額は2015年に比べて、書籍が16%、雑誌が11%減少し、総額でも15%の減少となっています。

地域別の輸入額に関しては、米国と英国に加えてユーロ圏（英国を除く27ヶ国）、東アジア（中国、香港、台湾、韓国）、東南アジア（ASEAN10ヶ国＋インド、ネパール）の輸入金額を集計しています。（表3-b）全体的に前年より落ち込む中で、東アジア各国からの輸入はほぼ前年並みを維持しています。

尚、この集計は主に輸入額の国別の順位を相対的に見るためのものですので、為替の影響に関しては考慮する必要はないと思います。

（表3-a）2016年の書籍・雑誌輸入額の上位20ヶ国

（単位:百万円）

順位	品目／国名	2015順位	書籍・辞典・絵本				新聞・雑誌・その他定期刊行物				合　計			
			2015	2016	前年比	構成比	2015	2016	前年比	構成比	2015	2016	前年比	構成比
1	米国	1	7,422	6,154	83%	28.1%	1,977	1,767	89%	50.2%	9,399	7,921	84%	31.2%
2	中国	3	6,152	5,988	97%	27.4%	69	57	83%	1.6%	6,221	6,045	97%	23.8%
3	英国	2	5,171	4,037	78%	18.4%	1,111	1,044	94%	29.7%	6,282	5,081	81%	20.0%
4	ドイツ	4	1,583	1,231	78%	5.6%	26	32	123%	0.9%	1,609	1,263	78%	5.0%
5	香港	5	1,122	1,041	93%	4.8%	95	88	93%	2.5%	1,217	1,129	93%	4.4%
6	フランス	6	985	696	71%	3.2%	109	85	78%	2.4%	1,094	781	71%	3.1%
7	韓国	8	699	632	90%	2.9%	148	71	48%	2.0%	847	703	83%	2.8%
8	シンガポール	7	634	265	42%	1.2%	256	229	89%	6.5%	890	494	56%	1.9%
9	イタリア	9	473	193	41%	0.9%	111	96	86%	2.7%	584	289	49%	1.1%
10	台湾	12	183	258	141%	1.2%	13	25	192%	0.7%	196	283	144%	1.1%
1位～10位			24,424	20,495	84%	93.6%	3,915	3,494	89%	99.2%	28,339	23,989	85%	94.4%
11	マレーシア	10	276	261	95%	1.2%	2	1	50%	0.0%	278	262	94%	1.0%
12	ベトナム	13	188	183	97%	0.8%	0	1	***	0.0%	188	184	98%	0.7%
13	ベルギー	22	38	145	382%	0.7%	0	0	***	0.0%	38	145	382%	0.6%
14	タイ	14	148	126	85%	0.6%	0	0	***	0.0%	148	126	85%	0.5%
15	アイルランド	19	98	96	98%	0.4%	0	0	***	0.0%	98	96	98%	0.4%
16	スイス	15	144	93	65%	0.4%	3	2	67%	0.1%	147	95	65%	0.4%
17	ブラジル	17	102	81	79%	0.4%	17	6	35%	0.2%	119	87	73%	0.3%
18	オランダ	16	115	62	54%	0.3%	12	4	33%	0.1%	127	66	52%	0.3%
19	カナダ	20	69	55	80%	0.3%	2	2	100%	0.1%	71	57	80%	0.2%
20	ポーランド	18	112	53	47%	0.2%	3	0	0%	0.0%	115	53	46%	0.2%
11位～20位			1,290	1,155	90%	5.3%	39	16	41%	0.5%	1,329	1,171	88%	4.6%
1位～20位 小計			25,714	21,650	84%	98.9%	3,954	3,510	89%	99.7%	29,668	25,160	85%	99.0%
21位以下 小計			484	237	49%	1.1%	14	11	79%	0.3%	498	248	50%	1.0%
合　計			26,198	21,887	84%	100.0%	3,968	3,521	89%	100.0%	30,166	25,408	84%	100.0%

（表3-b）2016年の米国・英国と地域別の書籍・雑誌の輸入額

（単位:百万円）

品目＼国名	米国	英国	EU（英国除く）	東アジア	東南アジア	その他の国々	合計
書籍類	6,154	4,037	2,580	7,920	881	315	21,887
雑誌類	1,767	1,044	223	242	232	13	3,521
合計	7,921	5,081	2,803	8,162	1,113	328	25,408
2016年構成比	31.2%	20.0%	11.0%	32.1%	4.4%	1.3%	100.0%
前年比	84%	81%	73%	96%	69%	59%	84%
2015年実績（合計）	9,399	6,282	3,839	8,482	1,604	560	30,166
2015年構成比	31.2%	20.8%	12.7%	28.1%	5.3%	1.9%	100.0%

2．　書籍・雑誌以外の品目の輸入額

表4は、49類に含まれる品目のうち、書籍や雑誌以外の品目についての集計です。印刷物と言っても、設計図やデカルコマニアといった、洋書業界とはあまり縁のない品物も含まれています。10年前（2007年）と比べて大幅に増えていますし、金額的には書籍・雑誌に比べてかなり大きなものですが、49類に定められた品目の中に分類できない雑多なもの、「その他の印刷物」の中の「その他のもの」（残念ながら具体的な内容は不明です）が多いような状況です。詳細は表をご参照ください。

（表4）2016年の書籍・雑誌以外の印刷物の品目別輸入額

（単位:百万円）

品目＼内訳		2015年輸入額	2016年輸入額	前年比	2007年輸入額	対2007年
楽　　譜		640	483	75%	852	57
地図、海図、地球儀		950	766	81%	1,295	59
設計図及び図案		701	13	2%	78	17
郵便切手・収入印紙など		71	124	175%	12,825	1
デカルコマニア（※）		1,427	1,200	84%	1,038	116
葉書、印刷したカードなど		2,674	2,031	76%	1,766	115
カレンダー	紙製または板紙製	2,883	2,584	90%	2,638	98
	その他のもの	122	86	70%	120	72
	小　計	3,005	2,670	89%	2,758	97
その他の印刷物	広告、商業用カタログ	10,280	8,085	79%	9,958	81
	写真	2,548	2,291	90%	2,050	112
	絵画、デザイン	2,048	1,479	72%	2,109	70
	その他のもの	41,506	41,963	101%	17,730	237
	小　計	56,382	53,818	95%	31,847	169
合　　計		65,850	61,105	93%	52,459	116

※ デカルコマニア: 転写印刷の技法そのものやこの転写に使う印刷された特殊な紙（原版）のこと。

（2）　輸出額

2016年の書籍・雑誌の輸出額（表5-a）は2015年と比べて約8%の減少となっています。ただし、輸入の部分でも説明しました通り、輸出決済に使用される通貨比率の直近の集計で51%を占めている米ドルが2016年は2015年に対して約10%の円高となっていますので、原価ベースの減少に加えて為替の影響も大きいのではないかと推測します。また、輸入とは異なり、最近10年間の輸出額の推移も、若干の上下はありますが、ほぼ横ばいと見ることができると思われます。（表5-b）

合わせて、最近10年間の書籍・雑誌の輸入額と輸出額の比率の推移を見てみますと、概ね輸入65に対して輸出35という状況が続いています。（表6）

（表5-a）2016年の書籍・雑誌関連品目の輸出額

（単位:百万円）

分　類	品　目	2015 輸出額	2016 輸出額	前年比	構成比
印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物および絵本	単一シートのもの	1,772	1,620	91%	11.7%
	辞典および事典	13	13	100%	0.1%
	その他のもの（書籍）	10,449	9,587	92%	69.4%
	幼児用の絵本及び習画本	66	43	65%	0.3%
	小　計	12,300	11,263	92%	81.6%
新聞、雑誌その他の定期刊行物	1週に4回以上発行するもの	2	1	50%	0.0%
	その他のもの	2,636	2,543	96%	18.4%
	小　計	2,638	2,544	96%	18.4%
合　計		14,938	13,807	92%	100.0%

（表5-b）最近10年間の書籍・雑誌関連品目の輸出額の推移

（単位:百万円）

品目／年度	書籍・辞典・絵本			新聞・雑誌・その他定期刊行物			合　計		
	輸出額	前年比	対2007	輸出額	前年比	対2007	輸出額	前年比	対2007
2007	11,831	106%	100	4,810	105%	100	16,641	106%	100
2008	10,816	91%	91	4,717	98%	98	15,533	93%	93
2009	11,358	105%	96	4,593	97%	95	15,951	103%	96
2010	14,425	127%	122	4,974	108%	103	19,399	122%	117
2011	10,608	74%	90	4,305	87%	90	14,913	77%	90
2012	9,933	94%	84	3,609	84%	75	13,542	91%	81
2013	12,203	123%	103	3,306	92%	69	15,509	115%	93
2014	12,800	105%	108	2,892	87%	60	15,692	101%	94
2015	12,300	101%	104	2,638	80%	55	14,938	96%	90
2016	11,263	88%	95	2,544	88%	53	13,807	88%	83

（表6）最近10年間の書籍・雑誌の輸出入額比率の推移

（単位:百万円）

輸出入／年度	輸　入		輸　出	
	金　額	比　率	金　額	比　率
2007	50,904	75%	16,641	25%
2008	44,529	74%	15,533	26%
2009	36,975	70%	15,951	30%
2010	34,783	64%	19,399	36%
2011	32,247	68%	14,913	32%
2012	29,780	69%	13,542	31%
2013	32,163	67%	15,509	33%
2014	32,650	68%	15,692	32%
2015	30,166	67%	14,938	33%
2016	25,408	65%	13,807	35%

（3）　電子書籍・電子ジャーナルの状況

文部科学省が発表している「学術情報基盤実態調査」の数値を参考までにご覧いただきたいと思います。表7は平成27年度までの、洋書と外国雑誌、電子ジャーナル、電子書籍（e-Book）等の図書館資料費の集計です。

今回の平成28年度調査（27年度の実績）によりますと、図書館資料費（国内を含む総額）は746億円で前年度より16億円増えています。そのうち、海外の電子ジャーナルは284億円で前年度より約20億円増えていますが、その背景には、為替（平成27年度時点では円安）や価格の上昇に加えて、平成27年10月から適用された海外電子ジャーナルに対する消費税課税が影響しているようです。一方で、電子書籍は6億円で前年度より約5千万円減っていますが、タイトル数では前年より約28万冊増えて516万冊となっています。（表にはタイトル数は記載していません）

因みに、紙媒体（洋書と洋雑誌）は、恐らく為替や値上がりの影響もあり、ほぼ前年並みの金額を維持していますが、全体の7割近くを電子媒体が占める状況は、洋書やや洋雑誌の輸入額が年々減少している状況を裏付けるものではないでしょうか。

(表7))国公私立大学における図書館資料費に占める海外出版物の購入金額の推移

（単位百万円）

媒体＼年度		平成22年		平成23年			平成24年			平成25年			平成26年			平成27年			
		金額	対前	金額	対前	構成比	金額	対前	構成比	金額	対前	構成比	金額	対前	構成比	金額	対前	構成比	対22年度
冊子	洋書	8,019	11%	7,560	94%	11%	7,409	98%	11%	7,231	98%	10%	6,815	94%	9%	6,935	102%	9%	86
	外国雑誌	12,599	18%	11,473	91%	16%	10,060	88%	14%	9,928	99%	14%	10,445	105%	14%	10,279	98%	14%	82
	合計	20,618	29%	19,033	92%	27%	17,469	92%	25%	17,159	98%	24%	17,260	101%	24%	17,214	100%	23%	83
電子	電子ジャール	19,680	28%	20,821	106%	30%	21,832	105%	31%	23,609	108%	33%	26,396	112%	36%	28,389	108%	38%	144
	電子書籍	455	1%	470	---	1%	640	136%	1%	615	96%	1%	692	113%	1%	638	92%	1%	140
	DB	3,181	4%	3,421	---	5%	3,559	104%	5%	4,164	117%	6%	4,300	103%	6%	4,706	109%	6%	148
	合計	23,316	33%	24,712	106%	35%	26,031	105%	37%	28,388	109%	40%	31,388	111%	43%	33,733	107%	45%	145
合計		43,934	61%	43,745	100%	62%	43,500	99%	63%	45,547	105%	65%	48,648	107%	67%	50,947	105%	68%	116
その他（参考）		3,560	5%	3,255	91%	5%	3,167	97%	5%	2,837	90%	4%	2,684	95%	4%	2,554	95%	3%	72
図書館資料費総額（国内含む）		71,551	100%	70,518	99%	100%	69,547	99%	100%	70,554	101%	100%	72,966	103%	100%	74,601	102%	100%	104

※「構成比」は図書館資料費総額に対する割合

(表8) 主要通貨の為替レートの変動

通貨＼年度	年平均レート									
	2012	2013		2014		2015		2016		
	TTS	TTS	前年比	TTS	前年比	TTS	前年比	TTS	前年比	対2012
米ドル（USD）	80.82	98.65	122%	106.85	108%	122.05	114%	109.84	90%	136
ユーロ（EUR）	104.13	131.18	126%	141.92	108%	135.81	96%	121.83	90%	117
英ポンド（GBP）	130.49	156.70	120%	178.21	114%	189.10	106%	151.72	80%	116
スイスフラン（CHF）	86.06	106.25	123%	116.52	110%	126.85	109%	111.27	88%	129
中国人民元（CNY）	13.03	16.20	124%	17.49	108%	19.52	112%	16.67	85%	128
タイ・バーツ（THB）	2.65	3.26	123%	3.34	102%	3.62	108%	3.17	88%	120

(表9) 書籍・雑誌の通貨別輸入額と計算原価の推移および、「貿易取引通貨別比率」にもとづく計算原価の対前値加重平均

（単位　輸入額: 100万円 原価: 1,000ユニット）

年度	2011		2012				2013				2014				2015				2016			
区分	輸入額（円）	計算原価	輸入額（円）	対前	計算原価	対前	輸入額（円）	対前	計算原価	対前	輸入額（円）	対前	計算原価	対前	輸入額（円）	対前	計算原価	対前	輸入額（円）	対前	計算原価	対前
合計	32,247	***	29,780	0.92	***	***	32,163	1.08	***	***	32,650	1.02	***	***	30,166	0.92	***	***	25,408	0.84	***	***
米国ドル	23,298	291,340	21,769	0.93	269,354	0.92	23,897	1.10	242,241	0.90	24,079	1.01	225,357	0.93	21,252	0.88	174,125	0.77	16,973	0.80	154,521	0.89
円	7,465	7,465	6,686	0.90	6,686	0.90	6,626	0.99	6,626	0.99	6,742	1.02	6,742	1.02	6,999	1.04	6,999	1.04	6,720	0.96	6,720	0.96
ユーロ	1,016	9,120	879	0.86	8,437	0.93	1,094	1.24	8,336	0.99	1,159	1.06	8,167	0.98	1,116	0.96	8,218	1.01	1,016	0.91	8,342	1.02
英国ポンド	64	488	60	0.92	456	0.93	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
スイスフラン	97	1,062	89	0.92	1,038	0.98	113	1.26	1,059	1.02	131	1.16	1,121	1.06	75	0.58	595	0.53	64	0.84	571	0.96
中国人民元	0	0	0	0.00	0	0.00	48	0.00	2,978	0.00	163	3.38	9,334	3.13	226	1.39	11,590	1.24	203	0.90	12,193	1.05
タイ・バーツ	0	0	0	0.00	0	0.00	32	0.00	9,866	0.00	0	0.00	0	0.00	60	0.00	16,666	0.00	51	0.00	16,030	0.00
その他	306	0	298	0.97	0	0.00	402	1.35	0	0.00	539	1.34	0	0.00	437	0.81	0	0.00	381	0.87	0	0.00
加重平均	***	***	***	***	***	0.92	***	***	***	0.92	***	***	***	0.97	***	***	***	0.85	***	***	***	0.91

（注）「貿易取引通貨別比率」は貿易取引（輸入）全体の金額ベースの比率で、貿易統計に計上されたデータのうち貿易取引通貨が判明しているデータにもとづいて作成されています。

（4） 為替の影響について

表8はここ5年間の主要6通貨のレートの変動を示したものです。対象通貨は、財務省が半年毎に発表している「貿易取引通貨別比率」においてほぼ99％を占める7通貨から円を除いた6通貨です。貿易取引で使用される通貨の約95%を占める米ドルと円以外の通貨は、ここ5年ほどの間に英国ポンドやスイスフランの比率が下降する一方で、人民元やタイバーツが一定の比率で加わるようになっていますのでこの表の対象通貨も6通貨としています。

表からは、2015年までの円安状況から一転して、2016年には急激な円高が進んでいるのが確認できますが、様々な要因が考えられる中で、アベノミクスや日銀の異次元緩和の効果が薄れてきていることも一つの要因かも知れません。ただし、この表にはありませんが、ご承知の通り、直近では再び円安傾向が続いている状況です。

※貿易取引通貨別比率：貿易取引全体の金額ベースの比率で、貿易統計に計上されたデータのうち貿易取引通貨が判明しているデータにもとづいて作成されています。

さて、「貿易統計」は、税関長が公示する外国為替レート（輸入申告の日の属する週の前々週の、実勢外国為替相場の当該週間の平均値）によって外貨から換算した金額にもとづいて集計されていますので、表面的には為替の影響が見えにくくなっています。つまり、統計に現れる金額の変化は、値上がりも含めた原価（外貨）の増減による部分と為替レートの変動による部分が合算されたものであるため単純な動きとしては捉えられないという状況があります。

こうした為替の動きが貿易統計にどういう形で反映しているのかを確認するため、「貿易取引通貨別比率」をもとに、年度毎の通貨別の輸入額（円）を算出し、更にその年度の平均為替レートから輸入原価（計算原価）を算出してみました。表9は、この輸入額（円）と輸入原価（計算原価）、更に、通貨毎の対前年比に「貿易取引通貨別比率」を加味した全通貨の対前年比の加重平均値を加えたものです。あくまでも計算上の数値であり、参考値として見ていただければと思いますが、貿易統計の輸入額と原価の変動の違いが確認できるかと思います。

例えば2016年は2015年に比べて輸入額（円）は16%の減少となっていますが、原価（加重平均）では0.91（9%減）と輸入額（円）より減少率が少ないことが確認できます。また、2015年では輸入額が0.92（8%減）となっているのに対して、原価は0.85（15%減）と更に大きく減少しています。

このように、「貿易統計」における、輸入額（円）の増減は為替の影響を受け、輸入額が減ったとしても、実態として、原価ベース（輸入数量）では増えている（もしくは減り方が少ない）場合があると推測できます。（逆に輸入額が増えていても原価ベースでは減っているケースも考えられます）前の章で、「輸入金額の増減は為替の変動の影響を受けるはずですので、統計に現れている金額（円ベース）だけでは分かり難い原価ベースでの輸入額の変動があったのではないか」と推測しましたが、この表の数値が一つの根拠になるのではないかと思います。

（5） その他の統計や経済指標について（参考）

1． 国際収支統計

最初に述べました通り、このレポートは、財務省が発表している「貿易統計」（「普通貿易統計」）のデータを元に作成しています。この「貿易統計」に対して、同じく財務省が発表している「国際収支統計」の一項目である、「貿易収支」は「貿易統計」を基礎資料として作成されていますが、両者にはいくつかの点で相違があります。「国際収支統計」は、大きく「経常収支」と「資本収支」、「外貨準備増減」に分かれており、「貿易収支」は「サービス収支」や「所得収支」と同じく「経常収支」の中の一項目です。

「貿易統計」と「貿易収支」は、集計に使う建値と数値の計上のタイミングに違いがあります。「貿易統計」は、輸出はFOB（本船渡し条件）、輸入はCIF（運賃・保険料込み条件）で集計されますが、「貿易収支」は物とサービスの取引を区別して計上されるため、輸出入ともFOBで集計され、輸出入の際の運賃や保険料、諸経費は「サービス収支」として計上されます。また、「貿易統計」が、輸出は「積載船舶等が出港した時点」、輸入は「輸入許可の時点」で計上されるのに対して、「貿易収支」は「所有権が移転した時点」で計上されます。

因みに、前の章の為替に関連しますが、短期的な為替変動の要因として、金利の変動や経済指標の発表、中央銀行の市場への介入といった点が挙げられ、一方で、諸説あるようですが、長期的な要因の一つとしてこの国際収支があげられます。国際収支が黒字であればため込んだ外貨（主にドル）を円に替える（買う）ため円高になるという理屈です。また、内閣府が景気の動きに関して毎月公式見解を示す「月例経済報告」をとりまとめる際の経済指標の一つとしてこの「国際収支」や「貿易統計」が参考にされています。

2．GDP

政府からは多くの統計や経済指標が公表されていますが、ニュースでも頻繁に報じられる一般的なものとしてGDP（Gross National Product 国内総生産）があります。GDPは、内閣府が国連の定めた国際的な基準にもとづいて作成している、「国民経済計算」（SNA: System of National Accounts）の中の項目の一つで、国内でつくられたモノやサービスの付加価値の合計で経済成長率の指標として使われています。しかし、これまでも指標としての信頼性に関して多くの指摘を受けており、昨年12月に公表されたものから新たな基準で作成されるようになりました。大きな変更点の一つとして、それまで経費とされてきた企業の研究開発費もGDPの対象となるように見直された結果、2015年度の名目GDPは30兆円増え、530兆円となりました。これにより、安倍政権が目標としている2020年に名目GDP「600億円」の達成の実現可能性が高まったとの見方もあります。ただ、これはあくまでも数字の上のことですので、我々の生活にはあまり関係のない話かも知れません。

以上、2016年の洋書貿易統計について、簡単ではありますが、報告させていただきます。不明な点や誤り、ご意見等がありましたら事務局までご一報いただければ幸いです。

参照元URL

- 貿易統計: http://www.customs.go.jp/toukei/info/index.htm
- 統計品目全体の詳細: http://www.customs.go.jp/toukei/sankou/code/code.htm
- 貿易取引通貨別比率: http://www.customs.go.jp/toukei/shinbun/trade-st/tuuka.htm
- 税関長公示レート: http://www.customs.go.jp/tetsuzuki/kawase/index.htm
- 学術情報基盤実態調査結果: http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/03/1383655.htm
- 国際収支統計: http://www.mof.go.jp/international_policy/reference/balance_of_payments/index.htm
- GDP（内閣府）: http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html

London Book Fair 2017

By Mark Gresham

Travelling abroad these days can be a little bit frightening. A couple of years ago I stopped by Istanbul on the way to Frankfurt – and on the day I landed there was a bombing in Ankara that killed over 100 people. As I wandered around the historic sites of Istanbul and took note of all of the tourists I thought about how this place, too, would be a good target for terrorists. And of course a couple of months later there was a bombing right where I had been standing. This morning the news was about London, where I was last week.

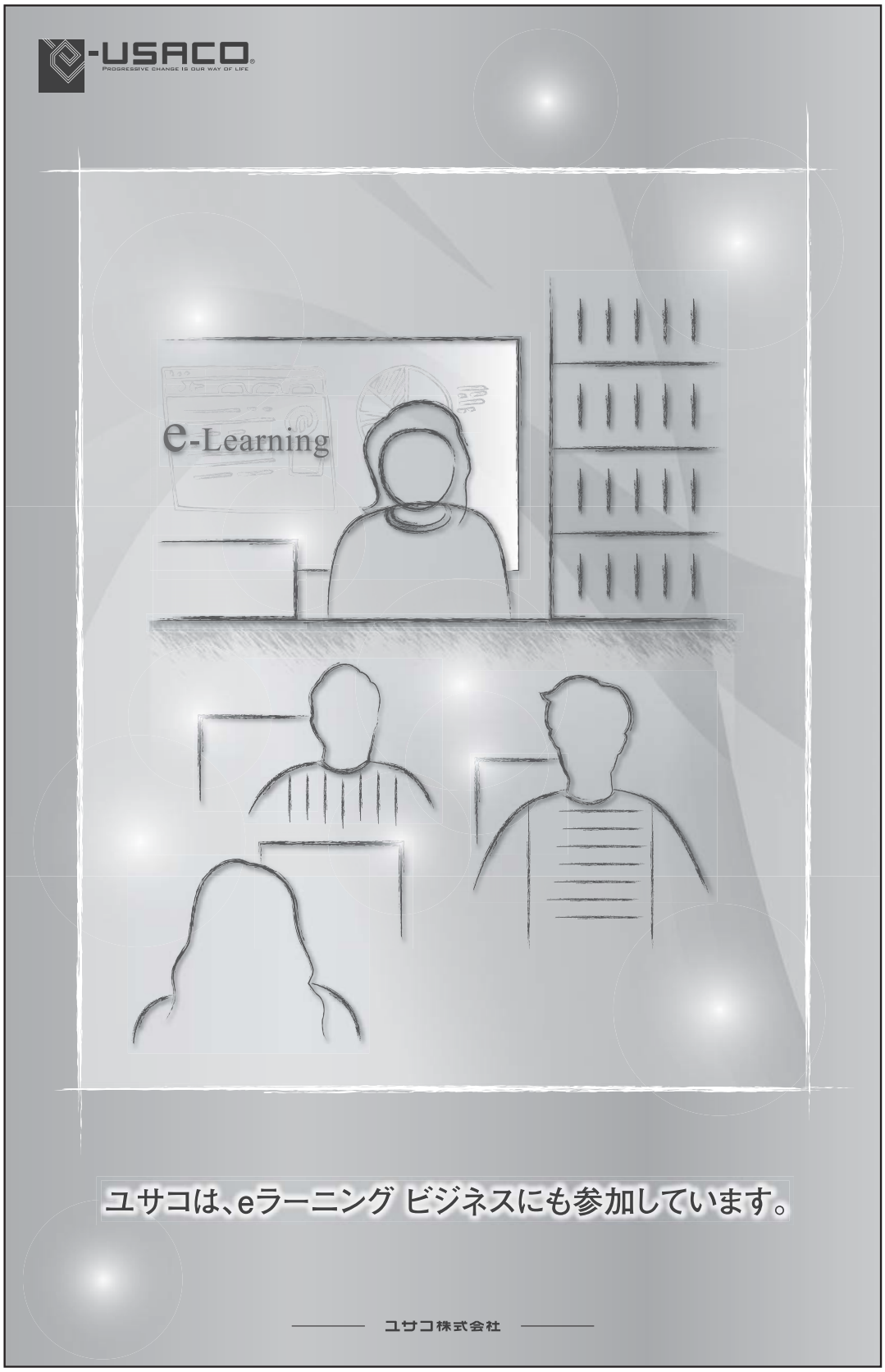
Still, if you're careful and watchful the hope is that you'll be able to avoid trouble. And so it was that I wandered the halls of Olympia once again this year. After 3 years in this location I think I've finally figured out the numbering system, but that's not to say that it makes much sense. The two largest halls (with cathedral ceilings reaching to the skylights above) where the big trade and academic publishers are located are Halls 6 and 7, joined by a passageway where publishers also display. Both of these halls have fairly wide upstairs balconies that encircle the main halls, and each of these is numbered. This is where many of the visual publishers have set up. Then, on the same level as the balconies but in the back of the two grand halls are the much less-travelled halls featuring children's publications, educational materials and publishing-related services.

It would be a lie, of course, for me to say that I know everybody in international publishing . . . but sometimes, after nearly a quarter-century in the business, it does seem that way. In addition to the 40 or so scheduled appointments I had over the three days there were another 10 or 15 impromptu meetings in the crowded corridors or while standing in line for a cup of coffee. It's amazing, really, how much can be accomplished in those short meetings when both parties realize that they have to get going to some other already-scheduled appointment. I also especially like it when you run into someone who says "Mark . . . I was hoping I'd run into you. Mr./Ms. So-and-so at such-and-such publisher wants to have a quick word with you about X, Y or Z. Can you possibly drop by and say hello?"

The London Book Fair is shorter by 2 days than the Frankfurt Book Fair . . . and quite a bit smaller in scale. I think this creates enormous energy from the very first minute the doors open at 9 on Tuesday morning. There's work to be done and not a lot of time to do it. There's a rush of humanity to get to that first 9 AM appointment, running the gauntlet of Fair staff who scan your badge and hand you the day's issue of The Bookseller or Publisher's Weekly. By the time you arrive at your appointment you've collected a couple of magazines, a couple more flyers announcing a new title that will be launched by the author and you've probably tripped more than once over any number of pulled suitcases that many people still insist on bringing with them.

The lines of people waiting at the reception desks for the very largest publishers (and the very largest publisher stands) can sometimes be frustrating. Most appointments are only 30 minutes but if you have to wait for 10 minutes before you can make your presence known to the receptionist who will then try to locate the person (or at least their table) with whom you are supposed to meet, suddenly your time for talking is now reduced by a third. In most cases, though, it doesn't really matter all that much … the visit is more about proving that you're still alive and doing well than it is about anything of substance – that's all dealt with in emails before and after the Fair. So why go? What's the point?

I've asked myself that any number of times over the last few years – both about London and about Frankfurt – and the answer I continually come back to is that these Fairs are inspiring and exemplary of the creative industry in which we work. The sheer numbers of people from around the world who are there because they share the same passion, because they have weathered the same storms, because they have devised new solutions to old problems, because they have stepped up to the challenges and opportunities of new technology and most of all because they have embraced the idea that what we do is worthwhile and important beyond logical explanation give meaning to all of the days and months when we sit at our desks back home dealing with the very ordinariness of daily business. It's why I go.



日本洋書協会会報 vol.51 No.3（通算546号） 発行日2016年5月1日 編集者 松野 夏生

発行所 日本洋書協会 〒101−0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 ㈱MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523
URL:http://www.jaip.jp E-mail:office@jaip.jp